



そろそろ年末ですね。ポーポキは今、温かい国で毎日、雨に出会っています。でも、ポーポキは大きなたのしい傘を使って楽しく過ごしています。みなさんも大きな楽しい傘があるといいね。



Popoki's Hot News!

ポーポキのピース・ブック3!

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『ポーポキ、元気って、なに色?』ができました! お近くの 本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのたろうにゃんから届いた平和。
「白紙に点が一つあると人はそこに視線を集中させます。人生が一枚の紙だとすると、それは多くの場合白紙だと思うし、白紙なのだと思えば良いと思います。そして点を夢に置き換えると、人生に夢を持った方が集中しやすいという事がわかります。集中すると生きる力も湧く気がします。肝心なのは、その夢を描けるかどうかは能力や環境じゃなくて、ペンを持つ意思と勇気で決まる事ではないでしょうか。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか?ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

新しい動画ができました!

ぼくの新しい動画をURLかFBでぜひ観てくださいね!

URL: <http://popoki.cruisejapan.com/videos.html>

いつもご協力、ありがとうございます!

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいです!

*神戸 YMCA でも販売していますよ! 本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



日本平和学会 2014 秋季研究会でのポーちゃんワークショップに参加して

2014 年 11 月 8 日 @ 鹿児島大学

九州大学法学研究院 炭崎貴子 (たかにゃん)

(アレキサンダーゼミ修士課程修了生)

11 月 8 日、鹿児島中央駅に降り立つと、目と喉がざらざらしました。そうです、桜島からの火山灰が降っていました。ろにゃん先生もさとにゃんもたかにゃんも、日本平和学会が開催された鹿児島大学一面にうっすらと降り積もる黒いざらざらした火山灰にびっくりしました。でも鹿児島大学の学生たちは元気に屋外で踊ったり、歓談したりしていました。ワークショップに参加した鹿児島大学出身の人によると、それでも鹿児島の人には桜島が大好き。桜島のお蔭で、温泉がたくさんあるし、温かい気候を満喫できるし、地震も思うほど多くないのだそうです。



さて、いよいよポーちゃんのワークショップが始まりました。正式な名称は、「日本平和学会平和教育プロジェクト委員会主体ワークショップ」。参加者は司会者合わせて 11 名くらい。たかにゃんは知らない人ばかりで緊張しました。でもそこでさとにゃん登場！まずみんなで輪になってポガをして緊張をほぐします。他の人たちも体の力が抜けて、会場の空気が柔らかくなりました。

ろにゃん先生から、「ポーポキ、元気って何色？」の紹介の後、「平和教育を安心して行えているか？」という質問をされて、参加者は両端が **Yes, No** のロープの自分が考える位置に立ちました。たかにゃんは、安心して行えていると思っていたけど、安心して行えていない、不安を感じている人が多かったです。参加者は大学の教員が多かったのですが、「平和教育」というと、警戒されたり、偏見的な内容を期待されたり、市民運動のようにみなされたりするそうです。

では、「平和教育を進めるのに何が必要か」を二つのグループに分かれて話しました。必要なものとして、多様性、自由、精神的な余裕、他の教員の協力、お金、時間、柔軟性、などが挙げられていて、それをグループで選びました。主に多様性・自由・柔軟性が大切な要素に挙げられました。

では、「多様性を排除するものは何か」を考えて、グループで言葉を使わずに表現します。なにを表現しているのか、もう一方のグループが考えます。この人はこういうポーズをしているけど、こう思っているのじゃない？こういう意味なのでは？とあれこれ考えることは、他の



人の心に思いをめぐらすということで、それは大切な事だと感じました。また、たかにゃんは自分の考えを言葉にするのが苦手なので、しどろもどろに話すのですが、そういう時に他の人からの意見や感想を聞くことによって、自分の思考がまとまっていくので、みんなで考えて意見交換をすることがとても嬉しく思いました。



自分とは意見が違う人もいたけど、ワークショップが終わるころには、みんなと仲良くなれた気がしました。ポーちゃん、ありがとう。



* ポーポキのインタビュー *

もりにゃん

西崎由莉さんに聞きました！

今回は、神戸 YMCA スタッフの西崎さんにインタビューをしました。大学生時代は YMCA の野外キャンプ活動のボランティアリーダーでした。神戸 YMCA には、たくさんの野外活動がありますが、東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会は、初めてリーダー会の枠を超えて集まった画期的な活動です。現在も西崎さんが中心となって活動を続けています。東日本大震災復興支援に関わり始めた経緯や、具体的な活動についてお聞きしました。

○活動のきっかけはなんですか？

最初は、大学のボランティアバスで、被災地に行ったのがきっかけでした。また、4月初旬でずいぶん早い時に、被災地を訪れました。このとき、100名近い規模で行きましたが、まだ被災後間もない地域に、大人数で行ったことや、ただ行くことに満足しているようなボランティアの活動内容や参加者の雰囲気にも強烈な違和感がありました。行ったことは迷惑になっていたのではないかと、というようなもやもやした気持ちがずっと残っていて、それが自分で何かしよう、という大きな原動力になりました。ボラバスの後に、2011年7月に仙台 YMCA

のスタッフ、仙台市津波災害ボランティアセンターの方々が神戸 YMCA に来られお話を伺う機会があり、このときに自ら仙台に行かせてほしいと仙台市津波災害ボランティアセンターの方に直談判しました。その3日後くらいに現地に行かせてもらい、10日間くらいボランティアをさせていただきました。それ以来、自分で何度か足を運ぶようになり、東北とのつながりができました。

○リーダー会を立ち上げようとしたのは、どうしてですか？

ボラバスや講演会など、YMCA でもいろいろ機会はありましたが、リーダーが参加できる日程ではなかったり、なかなか自分たちのペースで東北の復興支援に関わることができない場面が多くあって、自分たちで自分たちが動けるように、また情報が入るよという事で、リーダー会を立ち上げることになりました。この指とまれ、形式で寄せ集めのリーダーで立ち上げました。



街頭募金活動の様子。真ん中が西崎さん。

○神戸を拠点に活動していますが、どのような活動ですか？

なかなか東北にもいけないので、神戸できる活動を考えようと話しました。立ち上げからずっと行っているのは、毎月1回の街頭募金活動です。380万円もの金額を募金としてみなさまにご協力をいただきました。最近はずいぶん募金も減ってきています。この集めた募金をどのように使おうか、と話したときに、関西に県外避難されているご家族の存在を知り「リフレッシュファミリープログラム」を思いつきました。

○リフレッシュファミリーキャンプは、どのような活動ですか？

年4回開催しており、これは子どもだけではなく、お母さんお父さん方にゆっくりしてもらおう、という目的もあります。キャンプのときは、子どもが寝たあとの深夜も大事な時間となります。親御さんたちは、自分たちのストレスを吐き出すところがないため、話つきません。当初は2家族くらいの参加でした。参加者が集まらないため、実施を取りやめたこともあるほどです。今となっては、こうしたキャンプは必要性が増し、参加希望者も殺到しています。支援が減っていく中



フレッシュファミリーキャンプの様子。

で、また避難者さんへの理解も得にくい状況で、このキャンプの意義はとても大きくなっています。活動資金も、街頭で集めた募金や助成金で活動費用を自分たちで作っています。

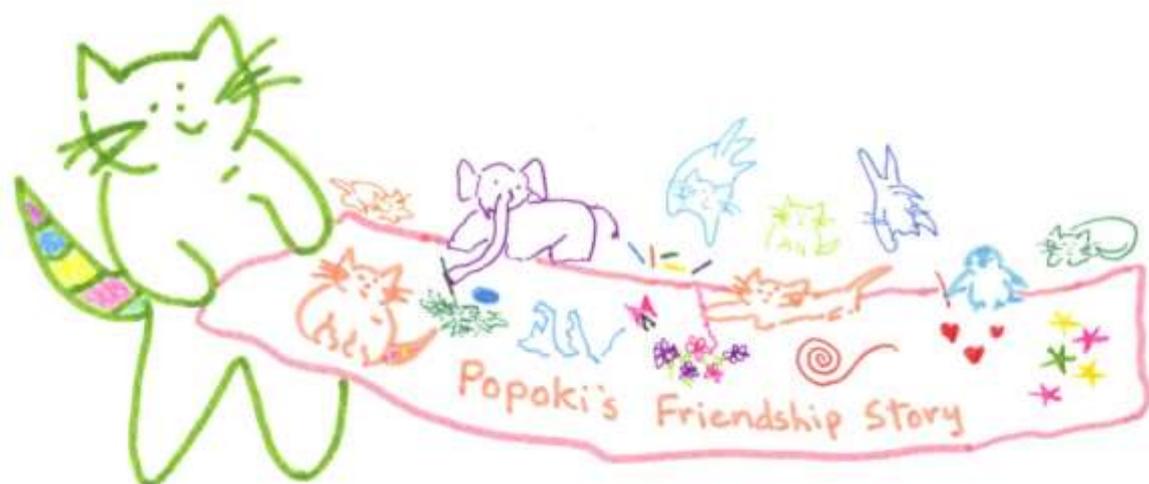
○参加者の方々の変化はありますか？

避難者家族の方々の参加費は無料で実施していますが、ずっと「避難者」として待遇を受けることに申し訳ないと感じていたりする人もおられます。できる範囲のことはする、という意識の変化や、3年も経つと神戸で生きていくと決められたご家族もいます。「避難者支援」から「地域のひととの活動」へのシフトを感じます。そのひとつに、リフレッシュファミリープログラムでは、参加ご家族にできる範囲のお手伝いをお願いしています。支援されるだけの側から、少しずつ運営側にも力を貸してもらっています。

○これからの活動は？

じつは、運営はとても難しいです。震災当初、大学生であったみんなは、私も含め社会人になりました。主なメンバーも、3年前に始めたメンバーが中心で、新しいメンバーがなかなかつなげていきません。そのため、キャンプの実施なども非常に難しくなっています。震災からも4年目を迎えようとしているいま、新しい展開が必要なときだと思います。

西崎さん、貴重な経験を共有してくれてどうもありがとう！YMCA のユースリーダーの想いと、彼らのその行動にとっても強いものを感じました。わたしも、新しいメンバーをつなげたり、これからの活動を展開したり、何かお力になりたいと思いました。みなさんも、新しいニャンメンバーを探しに、ぜひ一緒にどうですか？



小さな島国、パラオ（ベラウ）に約30年ぶりにやってきました。当時は、完全な非核憲法を制定したベラウにアメリカが信託統治終了の条件として核の持ち込みを可能にすることにしていました。憲法を守ろうとする人々と、変えようとする人と、まっぴらに分かれていました。結局はアメリカの条件を受け入れ、1994年にアメリカと自由連合協定を結びました。この30年間に建物や車、電気や水道などのインフラが増えました。観光客や移民労働者も増えました。でも、国内の教育機関は短期大学が最高なので、大学に行きたい人は海外へ。「家族」と「土地」を最も大切にす文化だが、多くの人は田舎の土地を人に任せて首都のロール市に仕事を求めに来ています。親が共働きのために子どもはフィリピン人に育てられ、学校では英語を使う。その結果、パラオ語ができない子どもは増えている、と。肥満、高血圧、糖尿病などが危機的なレベルに達している。そして、気象変動の影響も。20年に一回しか来ない大型台風は、ここのところ、2年連続に来て、大きな損害をもたらしています。雨の降り方も変わってきていると言われました。



いろいろな人に聞いてみました。「30年前に比べて、良くなった？」

一人もイエスと答えませんでした。

ポーポキは、人気者です。とくに『元気って、なに色？』は、多くの人に響くところがあったようです。健康のことが大きな社会問題になっていることもその理由の一つでしょうが、もう一つは、もともとの文化と今の近代的な生活のバランスが問題になっているからです。開発のためにサンゴが壊され、ジュゴンが危機にさらされ、なんだか多くの人も自然も病んでいるような気がしました。もちろん、海や自然そして人々の生活を守るために元気に一生懸命に働きかけている人もいます。ポーちゃんは、お手伝いしたいね。



『平和って、なに色？』と『友情物語』を日本語で声をあげて読んだおばあちゃんがいます。彼女は現在84歳で、日本の委任統治時代に日本語を覚えたそうです。彼女は Senior Citizens Center で毎日、仲間と一緒にバスケット

などを編んだりして、毎日を過ごします。そこでご飯も食べて、作ったものを売ることで若干の収入もあるようです。平和な日々を過ごしているようですが、ある人からはそこにいるから子どもたちはおばあちゃんと一緒に過ごし時間がないので、文化を伝承してもらえない、という意見も聞きました。日本語で日本時代のことを聞いてみました。「日本はたくさんの建物を作った。戦争のときは大変でしたが、日本人もたくさん死にました。」私は結婚して



いないと聞いたら驚きました。「女と男は一緒になって子どもを作らなければならない」と。日本人と結婚したかったか？と聞いたら、「戦争が終わったとき、まだ14歳でした。若かった。そして、日本人もみんないなくなった。日本人がいたら、結婚したかもね」と笑いながら答えました。

別のところでもう一人のおばあちゃんと楽しくあれこれを日本語で話しました。周りの人は、英語とパラオ語、時々日本語(パラオ語にはヤサイ、センプウキなど日本語の言葉がたくさんあります)

を使ったりして、ごはんを食べていました。そこでおばあちゃんが突然、英語で「私は日本人が大嫌い！」といて、その理由を聞かせてくれました。彼女は、戦争がもっとも激しかったペリリュー島の出身です。話によると、日本人は山のてっぺんを削って、島の人をその山のところへ移動させました。山の下にある自分たちの家に食べ物があったのに、そこには行かせてもらえませんでした。おなかが空いて、空いて仕方がなかったそうです。でも、それだけではありません。はげ山の上においたので、米軍の爆撃から逃げようがなかった、と。ある時、米軍の飛行機が墜落し、彼女は日本人がその乗組員を殺したのを目の当たりにしました。「日本人は残酷でした。」戦争は、7、8歳の少女の心に大きな傷を残してしまいました。

最後に彼女が言いました。「私は、センターで多くの日本人に会いますよ。にこにこして、あのころのことをよく覚えていないといて、ごまかすの。心の中では、『本当のことを言ったら、あなたはショックを受けて死んでしまうんだ』とつぶやく。昔のことだし。今の日本人は知らない。けど、私は日本人が大嫌い。」

話を聞いてから、「日本語で話して辛かったですでしょう。ごめんなさい」と英語で言いました。「日本語を覚えたのは小さなころだから大丈夫だよ。」と気遣ってくれました。日本人をはじめ、多くの人にこの話を知ってほしいと言ったら、名前や写真を使わなければどうぞと許可してくれました。後で、話をそばで聞いていた家族から聞きました。「私ははじめてその話を聞きました。」



この話は単に古い話ではありません。今、国として、社会として、個人として懸命に進むべき道を探っている人が背負っている大きな荷物です。日本や戦争で島に大きな被害をもたらした、戦後統治していたアメリカが残した傷跡のことだけではありません。私たちみんなが戦争の恐ろしさと和解の必要について学ぶ貴重な話です。30年後にはどんな国になっているのでしょうか。今、自然保護のリードをとろうとしているペラウの成功を祈ります。島と海が守られ、豊かな文化を

維持しつつほかの文化も尊敬され、核もほかの兵器も戦争もなく、明日への希望とエネルギーに満ちた島国であってほしい。

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 78

今月のテーマは、眼の疲れやストレスをとりましょう！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を美しく見せながらちゃんと座りましょう。
 2. まず、耳の下のくぼみに指を二本入れて、やさしく押しみましょう。
 3. 次は、眼の上の骨のところをなぞって押さえます。内側から徐々に外へ。目そのものを押さえないように気を付けてくださいね。
 4. 最後は、眼尻の横を押さえます。
 5. できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 12月27日 ポー年会！18:00～18:30 ポー会；18:30～ポー年会！
新神戸 OPA 豆の畑(予定)

2015年1月17日前後 ポーポキ at 阪神淡路大震災展 神戸市民ギャラリー 神戸市役所内

2015年2月26日～3月2日 ポーポキin大槌町

2015年3月?日 ポーポキのミニ平和映画祭

ポーポキの友だちからの知らせ

アフガニスタン産レーズンの輸入販売 (CODE)

*ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の(特活)日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。

※詳しくは <http://code-jp.org/afghanistan/index.html>



Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひと人抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいからなんです展 パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

アスタにゃん

「社会とのネットワークや関係のプラットフォームのようなもの」



およそ1カ月前、論文のフィールドワークのためにピッツバーグを訪れました。必要な旅行ではあったものの、行くことについてナーバスで疲れていました。インタビューをするにあたって、どうやって人を探して、インタビューに協力もらえるよう説得できるかわかりませんでしたし、どうやって街にはいって、人々と会い、インタビューを実施できるのか、まったく未知でした。ですので、家族と友達がいるウィスコンシン州マディソンを出発するときは、信じていくしかない、というような気持ちでピッツ

バーグ行の飛行機に必死の思いで飛び乗りました。けれども、ポーポキと彼の友達のおかげで、着いた瞬間に温かい歓迎をうけました。

テイラーにゃんは、私のポーポキの友達の一部です。彼女の家に案内してもらい、とても親切にしてもらいました。街を案内してくれ、インタビュー予定の人に会わせてくれました。そして、街の文化や伝統などについても街を案内して話してくれました。私と関心や興味が近い彼女の友人を私に紹介したりしてくれました。彼女のおかげで、生涯にのこる思い出をたくさん作ってもらいました。テイラーにゃん、ありがとう！また、ポーポキにも、私の社会におけるネットワーク



や関係を世界中に作るプラットフォームになってくれてありがとう！このつながりを与えてくれたことは、私が知識、文化、平和に関して遊牧民のようにグローバルな旅するきっかけを与え、いざなってくれました。そして、私は、その一つひとつに愛しさを感じています。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!